

◎丹毒ノ聴器ヲ經テ咽頭ニ

蔓延セシ一例

會員 飯森益太郎

余ハ前々號ノ紙上ニ於テ、丹毒ノ治療法ニ就キ、一篇ノ小報告ヲ掲載セシカ。其後尙ホ數名ノ同患者ニ遭遇セリ、内四名ハ入院患者(金澤病院)ニシテ、他ノ三人ハ外來通院ノ者ナリキ。而シテ其治療法ノ如キハ概ネ「イヒチオ」ヲ應用シ、只二名ノ患者ニ「フクシン」及ヒ「テレピン」油ノ塗布ヲ試ミタルノミ。

治療法ノ事ニ就キテハ、今ヤ茲ニ前說ヲ變換スルノ必要ヲ感セスト雖モ、余カ殊更ニ此ノ如キ標題ヲ掲ケテ貴重ノ誌面ヲ汚スハ、他ナシ唯「稀有」タル事ノ察病學上如何ニ、興味アルヤヲ思慮スレハナリ。

四月三日朝マダキニ、余カ門ヲ叩ク者アリ、余ハ之レヲ

客室ニ引キテ來意ヲ問フ、彼ノ曰ク、宅ニ一老母アリ年七十三、今ヲ去ルコト六日前ヨリ項部ニ一小腫瘍ヲ生シ、潮紅腫起甚シク加フルニ二三日前ヨリ惡寒發熱アリ、疼痛劇シクシテ安眠セサルヲ連日連夜ニ及ベリト。余ハ尙ホ他ニ二三ノ症候ヲ尋チ、概チ其「カルブンケル」ナルヲ知レリ。仍チ入院セサレハ充分ノ治療ヲ加フル能ハサルヲ以テ、往診ヲ謝絶セシト雖モ彼レ頑迷ニシテ只管一診ヲ乞フテ止マス、仍テ己ヲ得ス腕車ヲ驅テ病家ニ趣キヌ。

一老女年七十三、官吏ノ家族ナリ生來極メテ健康ニシタ未醫師ニ接シタルコトナシト云フ、然ルニ六日前項部ニ小腫瘍ヲ生シ、初メハ毫モ介意スルニ足ラサリシモ時日ヲ經フルニ從フテ増大シ、四月一日ニ至リ其尖端ニ三四個ノ小孔ヲ生シ、少量ノ膿ヲ泄ラセシト雖モ、周圍ハ益々増大シ同月三日ニハ殆ント大人手掌大ニ至レ

リト。

翌四日某醫ニ乞テ切開ヲ施セシト雖モ疼痛緩解セ
ス、反テ増劇蔓延シ安眠スルヲ能ハサルヲ以テ余ニ診
ヲ乞フト。

之レヲ診スルニ腫瘍ハ項部ノ中央ニ位置ヲ占メ、周圍
著シク腫起硬結シ正中ニ一仙迷計ノ小切開口アリ、少
シク膿ヲ泄ス体温三十八度二分、脈九十細ニノ弱シ、其
他全身症候トシテ身体疲勞、食慾減損、頭痛等アリ。

余ハ深大ノ切開ヲナスニ非ラサレハ到底此蔓延ヲ防ク
能ハサル旨ヲ諭シ、入院治療ヲ勸メシト雖モ患者ハ之
レヲ肯セス自宅治療ヲ乞フテ止マス依テ己ムヲ得ス前
ノ治療醫ト共ニ切開ヲ施スヲニ決定セリ

同日午後三時腫瘍ノ周圍ニ、3%ノ古加因二箇ヲ注入
シ、頸ノ縱軸ニ沿テ深且大ナル切開二箇ヲナシ、周圍ノ
硬結部ヲ悉ク剝離シ、沃佐「ガーゼ」ノ「タンボン」ヲ行

ヒ、防腐綳帶ヲ施ス。術ノ半ヨリ古加因ノ中毒症狀ヲ來
シ、ヲ以テ赤酒ヲ與ヘ、術後ハ前醫ニ托シ家ニ歸ル。

其後ハ疼痛緩解熱下降シ食欲稍、興進シ夜間充分安眠
スルヲ得タリシカ、切開ノ第四日ニ於テ、急使來リ
昨夕惡寒ヲ以テ熱三十九度餘ニ上レリト余ハ大ニ驚キ
ヌ如何トナレハ確カニ丹毒ノ起リシヲ想像シ得タレハ
ナリ。

同日午後五時頃患家ニ趣キ之レヲ診スルニ、創面ニハ
異常ナキモ頸ノ左側ヨリ耳後部ニ向テ有線性地圖狀ニ
赤色ヲ呈シ、微ニ皮膚面ヨリ腫起ス之レニ觸ル、ニ灼
痛アリ、熱三十九度七分頭痛嘔氣アリ、依テ直チニ「イ
ヒチオール」「アルコール」「グリセリン」等分ノ液ヲ塗布
ス。

爾來丹毒ハ倍々蔓延シテ、全頭ヲ侵略シ顔面ヲ降リ其
半ニ達ス。此間熱卅八九度ノ間ニ弛張シ、之レニ伴フニ

著シキ全身症候アリ、三四日ニノ身体大ニ疲勞セリ。

之レヨリ先キ、丹毒ノ耳后ヲ蔓延スルニ際シ、余ハ耳内

ニ入ランコト恐レテ、耳殼ニ豫防の塗布ヲ行ヒシニ、幸

ニ此部ニ來ラサリシカ、顔面ニ蔓延セシ時期ニ於テハ

漸ク怠リテ之レヲ爲サ、リシヲ以テ第四日ニ至リ左耳

殼ヲ侵シテ著シク腫起潮紅セリ。

第四日ノ晝頃ヨリ俄然嚙下困難ヲ來シ流動物ト雖トモ

嚙下ノ際非常ニ疼痛アリ、第五第六日ハ一滿ノ水一粒

ノ食チモ下スコト能ハサルニ至レリ。

之レニ反シテ顔面ノ丹毒ハ漸々消退シ、辛クシテ頰部

ニ於テ之レヲ撲滅スルコトヲ得タリ、然レモ熱ハ未ダ全

ク下降セサリキ。

余ハ玆ニ於テ思慮セリ、之レ丹毒ノ耳内ヲ經テ咽頭ニ

波及セシ者ナルヲ、試ミニ咽頭ヲ檢スルニ、著シク赤色

腫起シ舌上ニハ灰白色ノ義膜様物アリ極メテ不潔ナリ

、依テ頻リニ攪刺ヲ含嗽セシメシニ腫起潮紅漸々去リ
テ、少量ノ流動体ヲ嚙下シ得ルニ至レリ

一時余ハ家族ニ預后ノ不良ナリシコトヲ告ケシ患者モ今

ハ日ヲ經ルニ從テ快方ニ趣ケリ。初發ヨリ三週ノ后ニ

ハ自ラ歩行ヲ試ミ、創面モ壞疽片落脱シテ良性ノ肉芽

ヲ以テ被ハレ周圍又上皮ノ發生ニ吝ナラサルヲ以テ今

ハ余カ義務ヲ果セリ只前醫ニ赤酒ヲ持長センコトヲ托シ

其後再ヒ患家ニ至ラサレモ目下ノ現狀ハ推テ知ルヘキ

ノミ